

研究対象：

以下のいずれも満たす患者を対象としました。

- 1) 1997 年 8 月～2012 年 10 月に国立がん研究センター中央病院で末梢性 T 細胞リンパ腫 (PTCL) と診断された患者のうち、病理組織学的に末梢性 T 細胞リンパ腫・分類不能型、血管免疫芽球性 T 細胞リンパ腫、未分化大細胞型リンパ腫 (ALK 陰性および陽性)、または腸症関連 T 細胞リンパ腫と診断された患者。
- 2) 初回治療として国立がん研究センター中央病院で CHOP 療法あるいは CHOP 類似療法が施行された患者。

研究の概要：

PTCL には複数の組織型が存在しますが、B 細胞リンパ腫と比較してその予後は一般に不良です。

PTCL に対する標準的な化学療法である CHOP 療法での治療成績は完全奏効割合 33-70%、長期生存は 34-52%程度と報告されており、その治療成績は不十分です。第一寛解期に自家移植併用大量化学療法を施行する複数の前方視研究が施行され、一部に良好な成績を認めています。しかし、初回導入療法への奏効割合の低さから全解析対象のうち、自家移植に至ったものは全体の 7 割程度にとどまっており、むしろ初回導入治療の奏効割合を改善することが必要と考えられています。

以上を背景として、PTCL に対する標準治療は未確立ですが、現在においても CHOP/CHOP 類似療法が末梢性 T 細胞リンパ腫に対する標準治療として広く行われています。

本研究の目的は、当院において初期治療として CHOP 療法あるいは CHOP 類似療法を受けた PTCL 患者の病理組織型・患者背景・治療成績・予後などについて既存の資料(診療録、画像、検査データ)を用いた後方視研究を行うことにより、PTCL の本邦における長期の臨床経過について明らかにすることです。さらに、PTCL 患者は CHOP/CHOP 類似療法による初回治療での治療反応性、特に完全奏効割合が不良であることが指摘されていますが、同治療により完全奏効が得られた患者の長期の臨床経過は未知であり、これを明らかにします。

研究の意義：

本研究の結果、完全奏効が得られた患者の臨床経過が不良とすれば、PTCL に対する初回化学療法として CHOP/CHOP 類似療法では不十分と判断できます。また、これらの対象における予後因子解析を行うことで、CHOP/CHOP 類似療法で良好な病勢制御が得られる population が明らかにできる可能性があります。

目的:

本研究は、現在標準的な化学療法とされる CHOP/CHOP 類似療法で完全奏効がどの程度の患者に得られ、また完全奏効が得られた患者の臨床経過がよいのか、完全奏効が得られたとしても悪いのか、を明らかにすることを目的としています。完全奏効が得られたにもかかわらず、臨床経過が悪いことが判明すれば、将来的には PTCL の患者の標準治療は CHOP/CHOP 類似療法では不十分と判断され、より治療効果の高い化学療法が選ばれるようになると考えています。

方法:

本研究は当センターで 1997 年から 2012 年までに初回治療として CHOP/CHOP 類似療法が行われた患者を対象として、診療録から治療経過や治療を受ける前の患者のデータなどの必要な情報を収集します。情報収集の作業は研究事務局が行います。

個人情報保護に関する配慮:

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者の識別は本研究専用の研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

紹介先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科 北原英晃

TEL: 03-3542-2511 / FAX: 03-3542-3815